

学科	管理栄養学科	氏名	松波 勝
----	--------	----	------

家政学部の教育目標は、本学の教育目標と教育方針の下、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を通して社会的に自立して生きていく上で必要な①スキル・リテラシー・教養等に関する一般的知識・技能と②家政に関する専門的知識・技能と③建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付け、社会に出てからは、これらの知識・技能をベースに生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる人材を育成することである。

イ ライフスタイル学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、これからの社会の新しいライフスタイルのデザインを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住の面から支援することのできる人材を育成することである。

ロ 管理栄養学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、管理栄養士の資格を生かして、チーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導又は健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって、人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成することである。

ハ こどもの生活学科の教育目標は、家政学部の教育目標の下、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして、子どもたちの学力および社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することができる人材を育成することである。

1 教育の責任

<p>私は家政学部管理栄養学科の教員として2025年4月に着任し、2年間教鞭を振ってきた。2025年度はオムニバスを含めて7科目を担当した。右表に示すように、担当7科目のうち、5科目において健康運動実践指導者資格を取得するための講義および実技科目を担当し、健康運動実践指導者の養成に取り組んだ。</p> <p>その他)2年生のクラス担任として学生指導、岡崎城西高校との高大連携授業、オープンキャンパスや系列校見学会の模擬授業を担当し、また、資格取得試験対策を実施した。潜在能力開発研究所委員として、講演会の実施を担当した。添付資料1「シラバス」</p>	科目名	学科	開講期	受講者数	備考
	健康運動学	管理栄養	2年前期	65	健康運動実践指導者必須
	健康運動実技A(運動プログラム)	管理栄養	2年前期	28	健康運動実践指導者必須
	運動の科学	管理栄養	1年前期	50	
	解剖生理学実習II	管理栄養	2年前期	60	オムニバス健康運動実践指導者必須
	運動生理学	管理栄養	2年後期	29	健康運動実践指導者必須
	健康運動演習	管理栄養	2年後期	21	オムニバス健康運動実践指導者必須
	体育実技	管理栄養	1年後期	53	

2 教育の理念と目的

- ・教育の理念：難しいことを分かりやすく伝える。
- ・教育の価値：困難へのチャレンジと達成。
- ・目指す教育：学生と共に学び、ともに成長する「共育」。

管理栄養士をめざす学生が健康運動実践指導者資格を取得するために身体活動、運動に関する専門的知識、技能を獲得するのは、容易ではない。しかし、その困難にチャレンジして、達成することが教育の価値であり、チャレンジする学生に対して「難しいことを分かりやすく伝える」ことでサポートするのが、私の役割であると考えている。そのため、私自身が学び続け、学生と共に学び、ともに成長する「共育」が私のめざす教育である。

3 教育方法

学生の主体的な学びを促進させるために、授業には最低3つのワークを取り入れ学生の作業活動および学生間での学び合い、教え合いの時間を設けている。ワークは教科書を活用しながら実施し、読む、書く、話すことを基本にリーディングスキルの要素も取り入れ実施している(添付資料2:ワークシート)。また、学びが定着するように

授業用資料を配布し、スライドを確認しながら資料に書き込み取り組みを実施し（添付資料3：授業用資料）、ワークと講義での学修による二刀流で授業を実践している。さらに、インタラクティブソフトを活用し、学生の主体的な発言を聴取、コメントを行い、双方向型の授業も展開している。授業内容の理解度の確認については、科目に応じて単元毎に小テストを実施し（添付資料4：小テスト）、また、授業回毎に Google forms を活用した確認クイズなどを実施している（添付資料5：確認クイズ）。授業中の課題については、授業時にフィードバックし、提出されたワークシートおよび小テストは添削、採点をして返却している。

4 授業改善の活動

授業評価アンケートの結果を活用し、授業改善に役立てている（添付資料6：授業評価）。授業評価アンケートの結果から、教員の授業に対する課題を抽出し、具体的な改善策を授業改善計画書（リフレクションペーパー）に明記し、次年度への改善活動に役立てている（添付資料7：リフレクションペーパー）。講義では、反転授業を取り入れ、学生の主体的な学びを促すように取り組んでいる。また、実技科目についてはループリックを作成し、実演に対する評価基準を学生に明示し、客観性のある評価に努めている。その他の授業改善の活動としては、学内FD研修会、ワークショップの参加、公開授業、授業に関わる論文や動画の活用などに取り組んでいる。FD研修会やワークショップは自身の教育活動を振り返る良い機会となっている。

5 学生の授業評価

2025年度の授業評価は添付資料6の通りである。総合満足度の評価は「4.24」～「4.65」の範囲であった。健康運動実技Aを除いていずれの科目において、昨年度よりも評価が改善された。このことは、授業改善の成果が現れたと考えられる。予習・復習の時間が全体的に基準となる領域の平均時間よりも短い、確認クイズや頻繁な小テストの実施などにより、学習成果が向上した。このことは、授業内での教育方法が効果的に機能し、理解・定着を促進したと考えられる。（添付資料6：授業評価）

6 学生の学修成果

1. 管理栄養士に関連する「運動生理学（2年前期）」および健康運動実践指導者資格に関連する「健康運動実技A（運動プログラム）（2年前期）」の結果を以下に示した。

	秀 (S)	優 (A)	良 (B)	可 (C)	不可 (F)
運動生理学	3.6%	14.3%	32.1%	28.6%	21.4%
健康運動実技 A	10.7%	60.7%	25.0%	3.6%	0%

(1) 「運動生理学」は応用栄養学に関わる分野であり、健康運動実践指導者の必須科目である。運動時の身体の働きは、実際的ではないものの、関連科目である「解剖生理学」や「解剖生学実習」の内容や身近な事柄を例に挙げて、理解を促すように取り組んだ。また、毎回の授業後、確認クイズを実施した。この取り組みが学修成果に反映したと考えられ、昨年度よりも「不可」の学生の割合が半減した。

(2) 「健康運動実技A」は演習科目であり、運動指導の理論と指導実演能力が評価の7割を占めるものの、「秀」、「優」の割合が約70%となった。実演課題に対しては、実演評価基準のループリックを作成し、提示したことが、この学修成果に反映したと考えられた（添付資料8：実技評価ループリック）。いずれの科目についても次年度以降、継続して取り組んでゆきたい。

2. 健康運動実践指導者認定試験

受験者（実技・筆記）	合格者	合格率	全国平均
11名	11名	100%	59.6%

(1) 担当している健康運動実践指導者資格の試験結果は、受験者11名中、11名が合格し、合格率は100%であった。授業時間外に実施した対策講座の成果があったと考えられる。

7 授業科目に関連した教材開発

各回の授業内容にあわせたワークシートを毎時間毎に作成し、予習・授業・復習に活用している。また、授業で示すスライドは、教科書に書いている内容の要点を中心に作成し、そして配布するスライド資料は書き込み式に設けている。さらに、単元毎の小テスト、確認クイズを作成し、実施している（添付資料4,5）。

8 指導力向上のための取り組み

愛知学泉大学家政学部が主催する FD 研修会、情報教育研修会、公開授業に積極的に参加し、教育内容・方法の情報収集し、教育改善の参考にしている。また、学内版 GP の研究メンバーとして生成 AI の教育への活用についても研鑽し、自身の授業改善の参考となる点については、取り入れるように心がけている。学外での研修会にも参加し、教授力の質を高めるよう研鑽に努めている。

9 今後の目標

(1) 短期目標としては、資格取得の科目を多く担当しているため、資格取得を希望する学生全てが資格試験に合格できるよう、「難しいことを分かりやすく伝える」を念頭に授業に取り組みサポートに努めたい。そのためには、常に自己研鑽し、学び続ける姿勢を失わないように心がける。

(2) 長期目標としては、管理栄養士と健康運動実践指導者の資格を生かして、栄養と運動の両面から健康増進・疾病予防の現場で活躍し、人々の日常生活を健康の面から支援する社会に役立つ人材を育成することである。

10 添付資料

添付資料1「シラバス」、添付資料2「ワークシート」、添付資料3「授業用資料」、添付資料4「小テスト」、添付資料5「確認テスト」、添付資料6「授業評価」、添付資料7「リフレクションペーパー」、添付資料8「実技評価ループリック」